

《短 報》

冠攣縮性狭心症における ^{123}I -BMIPP の洗い出しの意義

福光 延吉* 川井 三恵** 永田 雅子** 内山 眞幸***
森 豊***

*東京慈恵会医科大学附属柏病院放射線科

** 同 内科

***東京慈恵会医科大学放射線医学講座

要旨 冠攣縮性狭心症の ^{123}I - β -methyl iodophenylpentadecanoic acid (BMIPP) の洗い出しについて後期像を参考に、最終狭心発作からの時間経過の観点から検討した。心筋 SPECT を 13 セグメントに分割し、各セグメントの defect score を求めた。3 枝領域において、早期、後期 severity score より、washout score (WS) を算出した。攣縮を認めた領域で、最終狭心発作から 1 か月未満の群 (<1M 群) と 1 か月以上の群 (>1M 群) の WS を比較した。右冠動脈領域で、WS は <1M 群で >1M 群より有意に高値を認め、他の 2 枝領域でも高値を示す傾向を認めた。BMIPP の洗い出しは、臨床経過を反映する指標になる可能性があると考えられた。

(核医学 36: 369–374, 1999)